

第1回 六甲山系有馬地域学習ゾーン検討委員会

議 事 要 旨

1. 開催日時：平成24年10月5日(金) 10:00～12:00
2. 開催場所：有馬地域福祉センター 2階会議室
3. 出席者：

【委員】

宮田 隆夫	神戸大名誉教授	構造地質学
香西 直樹	六甲山自然案内人の会 代表	自然(六甲全体)
水野 浩典	神戸市立有馬小学校 校長 (神小研理科部参与)	自然(郷土)
稲垣 健	神戸市立鹿の子台小学校 校長 (前指導課指導主事)	郷土史
藤井 清	有馬温泉郷土史研究家	郷土史
藤木 久幸	有馬川を美しくする会 会長	地域活動
神野 忠広	六甲砂防事務所事務所長	砂防・防災

【事務局】

六甲砂防事務所	綾木副所長、森東課長、杉浦係長、西山技術員
株式会社エイト日本技術開発	田中、吉川、松本、松島、嶋田

4. 配付資料

- 議事次第
- 第1回検討委員会資料(資料①～⑦)
- 参考資料 「みんなで語り、伝えよう! 夙川物語」「主な学習要素(有馬川流域)」

5. 議 事

1. 開 会	・六甲砂防事務所 神野事務所長あいさつ
2. 委員紹介	・各委員、事務局による自己紹介(資料①)
3. 委員会設立趣意、規約(委員長の選任)	・事務局による説明(資料②)
4. モデル地域での取り組みについて	・事務局による説明(参考資料)
5. 本委員会での検討内容・スケジュールについて	・事務局による説明(資料③)
6. 有馬川地域の特性、学習ストーリー・骨子等について	・事務局による説明(資料④、⑤、⑥)
7. 意見交換	
①活用すべき地域資源等について	
②有馬川地域の独自性と学習展開について	
8. その他、冊子における「わかりやすい表現」について	・事務局による説明(資料⑦)
9. 閉 会	・六甲砂防事務所 神野事務所長あいさつ

<議 事>

●事務所長あいさつ

●資料①、②、③、参考資料 事務局説明 (宮田教授が委員長に選任される)

●質疑応答

特になし

●資料④～⑥ 事務局説明

●意見交換

(藤木委員)

- ・ P5 の植生の希少植物について、「有馬温泉農業協同組合所有の山林」ではなく、現在は有馬温泉自治協議会の所有となっているため修正が必要である。
- ・ 日本三大古泉について、「草津」ではなく「白浜」ではないか。
その他文言に関する指摘あり

(藤木委員)

- ・ (利休荘から見た) 有馬三山は「湯槽谷山」ではなく、「愛宕山」が入る。三山ではなく三笠という。

(香西委員)

- ・ P5 の動物等における生き物について、スミスネズミ、エゾゼミ、ヒメボタル、モリアオガエル、コベマイマイを追加してほしい。
- ・ P5 の植生における自然林について、有間神社のツブラジイ群落、六甲山山頂のブナ群落（共に神戸市のレッドデータAランク）を追加してほしい。
- ・ 難しい漢字や変わった読みの漢字などは読み仮名が必要である。(例: 地形地質「^{ほんじょやおぼた おね}番匠屋 畑尾根」)

(水野委員)

- ・ 六甲山の風化について、場所によって風化の進行状況が異なる理由や、地質・地層の関係などの情報の提供を行ってほしい。
- ・ また、谷に雨がどのように流れているのか、流域面積なども併せて掲載してはどうか。

(稲垣委員)

- ・ 骨子の構成 (P13、14) について、取り扱う内容の規模を考えると「3-1-2.土砂災害がおこりやすい六甲山系」と「3-1-3.阪神・淡路大震災と六甲山」を入れ換えたほうが、話の流れとして良いのではないか。

(藤井委員)

- ・ 有馬五山の写真を提供するので参考にさせていただければと思う。
- ・ 十二坊に関する情報は書物によって様々な内容があるが、有馬地誌を参考とするべきであろう。
- ・ P5 のまちの変遷における明治～昭和について、内務省衛生局オランダ人「ゲールツ」ではなく、「ゲールツ」である。

その他文言に関する指摘

(藤木委員)

- ・ P13 の阪神大水害に関する記述について、「太閤橋が原因」とあるが、「暗渠が原因」である。
- ・ P13 「3-1-3.阪神・淡路大震災と六甲山」の中の記述について、「地震と復興の繰り返し」とあるが、「山津波」とする方がわかり易いのではないか。

(藤井委員)

- ・ 「山津波」は「土石流」のことで書物にも書かれているが、最近の若い人にはわかりづらいかも

しれない。

- ・また、同じ項目において「私たちの街は、かつて、土砂に埋まった」という表現があるが、全部が埋まったわけではないので、「一部が土砂に埋まった」としてはどうか。
- ・P16の散策ルートについて、魚屋道と記載されているがこのように区間は短くない。住吉道と一緒にある。住吉道が改修されたのが明治の初めである。

(藤木委員)

- ・魚屋道と住吉道と一緒にしたほうが良いのか。分けるほうが良いのか。

(藤井委員)

- ・魚屋道は通称である。この道は昔からあった。

(宮田委員長)

- ・住吉道は昔のルートは現在のルートと変わっていたということか。

(藤井委員)

- ・おおだき方面へ繋がる道はほとんど使われなくなった。それが昔は魚を運んだ道である。
- ・魚屋道は通称であるため、住吉道で良いのではないか。

(水野委員)

- ・魚屋道ではなく、炭屋道ではないか。

(藤井委員)

- ・P17の文言について、「温泉神社」ではなく、「湯泉神社」である。

その他文言に関する指摘

- ・P19の番匠谷について、実際に薬草が植わっていた。

(神野委員)

- ・白水峡の辺りには昔の砂防堰堤が残っているため、資源として前面に出してはどうか。明治・大正の砂防は南斜面にはない。建造年は書籍にて調査が必要である。

(宮田委員長)

- ・P8「1-2-2.六甲山地の断層」の中で「六甲断層」と記載されているが、近畿に住む人は六甲断層と言えば北側の断層という認識を持つが、近畿外の方は南側と誤解されてしまう。そのため、「有馬高槻断層帯（西の部分を六甲断層という。）」のような表現としてはどうか。
- ・散策ルートについて、有馬温泉に宿泊された人は有馬温泉の中を散策するというケースが多いかと思う。それを考えと六甲山の上まで登らないと思うので、有馬温泉の中だけのルートを作ってはどうか。
- ・自然の散策ルートについて、ヤマフジの周辺の河岸段丘のズレなど地形や断層の特徴的なものを紹介してはどうか。

(藤井委員)

- ・愛宕山は昔公園であった。それが今では、放置されている。回遊道路が今でも残っている。

(藤木委員)

- ・今の資料では有馬三山には愛宕山が入っていない。

(事務局)

- ・書物によって扱いが様々であるため、記載内容について相談させていただきたい。

(宮田委員長)

- ・本日の意見をこれから作成する冊子等へ修正・反映させていただきたい。

●資料⑦ 事務局説明

(稲垣委員)

- ・ P 22 下表の難しい表現の中で、「形成された」を「造られた」としているが、小学生には分かりづらいのではないかと。 「かたちづくり」というような表現の方が良いのではないかと。

(事務局)

- ・ 現在このような表現方法についてルール化を一覧にて整理しており、今後相談させていただきたい。

(宮田委員長)

- ・ 冊子の案が出来た段階で確認頂ければと思う。そのほか、資料の誤字等は後で事務局の方へ直接指摘していただきたい。

●閉会挨拶

(神野事務所長)

- ・ かなり手直しがあるようですが、まだたたき台のたたき台でございますので、ご指摘等ございましたら事務局のほうまでお申し付けいただければ次回の委員会までに修正いたしたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。